

# 意見交換会

太田会長： せっかくの機会でございます。Jネットへのご意見・ご提案、また本日はわざわざ木浦市長がお見えになっておられます。ふるさとのまちづくりに關してのご意見やご提案などございましたら拳手の上、ご発言いただきたいと思っております。六時十五分までも二十分ほどございますがよろしくお願いいたします。

青田川にとんぼを・・・  
安藤さん： 東本町三丁目の出身で、現在さいたま市におります、安藤でございます。たまたま機会がありまして、四年ほど前に東京都の一周、それからつい最近前橋と高崎の上空をすつとへりで見える機会がありました。それを見て、はじめは面白いと思つてわくわくしたのですが、いずれも住宅砂漠でございます。こ

んなに惨めな格好になるのかと、しみじみ悲しく思いました。高田でも特に山麓線の西側のほうに住宅開発が進んでいるようですけれども、ああいうふうな砂漠にならないようにご配慮願いたいと思つます。それから、青田川でございますけれども、今の青田川はただ水を流しているだけで、あれではとんぼも何も住みませんので、岡村さんの提案のように何メートルごとに堰を作つておけば清水帯ができますので、とんぼは必ず住めると思つます。そういうふうなことをぜひお願いしたいと思つます。以上でございます。(拍手)

高橋部長： この四月に企画部長になりました高橋でございます。若年者でございますが今後ともひとつよろしく願つていただきます。今ほどのご要望につきましては、関係部局をはじめ、意を尽くして



我々のほうも検討させていただきますと思つますのでよろしく願つていただきます。

三浦課長： 今のお話につきましてはまず、第一点のほうの高田山麓線の西側の住宅の開発が、今のお話のとおりです。市「上越」ということで、当然これまでも豊かな自然環境をどう生かして、これからのまちづくりにつなげていこうかというところで取り組みをすすめております。今お話がありました、これは例えのお話かと思つますが、住宅砂漠というふうなことになるように、さきほど市長からお話がありましたように、

いつでも皆様方がお戻りになられた時にも、またゆつくりとお戻りになつていただけるようなまちづくりというものは、これからはすすめていきたいと思つております。

それから、青田川のほうにつきましては、これまでもさまざまな取り組みをすすめております。たとえば桜を植えたり、河岸の整備につきましても、これまでの一律的な河岸整備ではなくて今お話があつた、生き物が生息できるような形で取り組みを進めております。その辺のところは先ほど部長からお話がありましたように、ご意見をいただいたということで担当のほうにも伝えていきたいと思つております。

太田会長： 安藤さん、今のご回答よろしいですか。青田川のこと何か提案はあるんですか。

安藤さん： それが、今眺めておられます、ただ水が流れているだけで非常に殺伐としております。あれをなんとかやつていただきたいと思うのです。

木浦市長： 最初から私が答えておればよかつたのですが、大変失礼をいたしました。

青田川を愛する会という会もありまして、皆様方が一生懸命、川を単なる水が流れる川ではなくて、今のご指摘のとおりになつていこうかということでございます。

す。しかし、途中で放水するために分水をつくりましたので、なかなか水が少ないうちがございまして、やはり、そこがネックなんだらうということで私も聞いております。徐々に今、うちの課長が申し上げたとおり、桜を植えたりして、その堤防を通るのに朝晩、散歩をされる方が非常に増えてきているということ、少しずつ、川の中も昔のように戻っていくようにと、皆さんの意見もございまして、その方向で行こうと思っ

ているんですけども、なかなか基本的にたくさん水が流れる川ではないということ、非常にそういったところで難しい点も出てきているのかなとは思っております。おおむね、そういう方向で青田川を愛する会の皆さんとともに、いろんなアイデアを出して、また子供たちとともに、小学校の方が中心になりながら、たくさん意見を出していただいているようにございまして、そういう方向で頑張っていきたいと思っております、よろしくお願ひいたします。

太田会長：その他せつかくの機会でございます。はい、どうぞ。

火力発電所の見通しは？  
松平さん：黒井出身の松平でございます。私の家の裏が今、火力発電所ができていますのでございまして、私はこの

の会に入ってまいりましたのは、火力発電所がどのようになっているのかお聞きしたいと、そういう動機で入りました。どの辺までですんでいるのか市長さんとお会長さんにお聞きしたいと思います。

木浦市長：会長さん、直接の担当の会社でございますから、会長さんからお話いただければと思うのですが辞められまして、ということでございます。それから、ちようど、昨年十月三十一日に三つの会社、つまり中部電力、東北電力、そして、ふたつの電力会社からつくられまして、共同火力という会社が上越市長のところへ運転開始建設の延期を申し入れてまいりました。一号機が五年。そして三号機が八年ということ、それぞれ延びてしまうということです。

要するに会社側の皆さんは、電力の自由化ということから、株主の皆さんに説明責任をしながら、会社の体質改善ということ、そういう会社の方針を出されたいと思っております。しかし、私どももいたしましては、通常の民間の会社と違

いまして、そういう計画のとおりに行ってもらわないと、私も地域と約束しておりますから、交付金のこととか、協力金によっていろんな事業を計画しておりますから、困るといふ話ですつときた

わけでございます。

つい先だつて、運転開始の時期は平成22年に変わりはないんですけども、建設を前倒しにして開始していただく。すなわち、平成十九年の三月に一年と五ヶ月、建設時期を早めていただくということに決着させていただいて、交付金のお金が下りてくるのが、その権音が聞こえないとだめだということから、私どももそのような三つの会社にお願ひしてきたところでございまして。

そういう意味では、平成十九年の三月から建設を始めるということで、私どもも苦渋の選択といえますか、このまま約束どおりにやっていた方がいいのではありませんけれども、そうではないという会社の事情を、苦渋の選択の中で選択させていただいたということでございます。

そして、今懸念でございました、埋め立てをしている工業地の埋め立てについては、平成十四、十五、十六の三カ年で行うことは変わりなく今すすんでいるわけでございます。後、二年、平成十五、十六と、だいぶ埋まっておりますけれども、順調に進んでおります。



○その後も新幹線の開業時期についてなど活発な意見交換がされました。(略)